

地域の子供達と一緒にしめ縄やだるまを集め、どんど焼きの準備をしました。



おひやり

No.254
平成 26 年 2 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 藤本光世

愛育園見学記をありがとう

園長 藤本光世

愛育園には、見学の方が来られます。あちこちの民生児童委員の方や、社会福祉の関係者の方です。当園は、そのままの姿をすべてお見せしております。子供達とも交流していただきます。ある時は、園内保育に入って、自然と子供達と一緒に歌を歌ったり、ダンスをすることがありました。子供達に本を読み聞かせたり、一緒に遊んでいただくこともあります。部屋の様子や物干しの洗濯物も見てもらいます。

子供達の様子を観て、挨拶が出来て、明るく感じていただけると嬉しいです。

11 月 16 日に東京の浜松町で開かれた国際箸学会総会でお話させていただいたことがご縁となって、当園に箸学会の皆さまがおいでになり、箸づくりをしていただけることになりました。その様子が、国際箸学会のHPのブログに載ったのです。そこには、園の様子がそのまま書かれています。子供達とも箸づくりを通して交流していただきましたので、きっとお分かりになっていただいたのかもしれない。それをもとに、時間を取っていただき懇談しました。児童養護施設の仕事をご理解くださり、そして当園の様子をそのまま受け入れてくださり、嬉しかったのを覚えています。外部の方の視点で、園の子供達の様子を観て感想を寄せていただけるのは、とてもありがたいのです。ここにご了解を得て、全文を掲載いたします。

児童養護施設 円福寺愛育園で、世界初の「競技用箸づくり教室」を開催しました！

藤本園長の講演から急遽生まれた箸づくりの企画

競技用に特化することで仕上がりまでの時間を短縮！

2013 年 12 月 15 日（日）、長野県長野市篠ノ井の「児童養護施設円福寺愛育園」にて、競技用箸づくり教室を開催しました。同園で 2014 年 2 月に開催が予定されている箸ピー大会用に、子供達たちみんなで「競技用マイ箸」作ろうというものです。

1 か月前の 11 月 16 日（土）に行われた「第 15 回国際箸学会講演会」で同園の藤本光世園長から、「子どもが楽しく伸びる養育と箸～児童養護施設の現場から～」というタイトルでご講演をいただきましたが、その後、藤本園長と小宮山会長との話し合いの中でこの企画が生まれました。

これまで国際箸学会の箸づくり教室で製作してきた食事用の箸との違いは、最終工程で漆加工で

はなく、ラッカー塗装を施すこと。ラッカー塗装の箸は食事には使えませんが、仕上がりの時間が短縮でき、費用も抑えられるというメリットがあります。因みに漆加工は完成まで約 1 カ月、1 膳 1000 円ほどかかるのに比べて、ラッカー塗装は乾燥まで数時間、スプレー缶 1 本 400～500 円で済みます。愛育園での箸ピー大会が 2 月に迫っており、出来上がった「マイ箸」での練習期間も考え、12 月 15 日の開催が決まったのです。

愛育園は手作りの品であふれた温かなところ

当日は小宮山会長はじめ総勢 9 名の会員がこの「世界初の競技用箸づくり教室」のサポーターとして参加しました。

前夜から日本列島に寒波が押し寄せ、長野へ向かう特急の車窓からは小雪が舞い散る風景も見られましたが、午前 9 時半、JR 篠ノ井駅に降り立った時は雲間に青空も見えてひと安心。一同、出迎えてくれた同園職員の車に分乗して、10 分ほどで「円福寺児童福祉センター」に到着しました。同センターは 1 階が愛育園の事務室と食堂、2 階に体育館と図書室、会議室があり、箸づくり教室は体育館が会場とのことでした。

玄関に入ると、美味しそうな甘～い匂いが漂ってきました。なんと、フロアにクッキーやチョコレートなどでつくられたお菓子の家が飾られていたのです。聞くと、子供たちの手づくりとのこと。いままでの寒さが癒され、ほっこり、温かい気持ちにさせられました。

早速 2 階に上がり、会場となる体育館で、事前に事務局から送った材料や道具類を確認し、担当の職員の方と開催の手順を打合せしました。その後開始時間の 10 時まで、会議室で藤本園長と歓談。園長からは改めて、子供たちの養育における箸の効果や役割、子供たちの自立を促すためのさまざまな活動についてお話があり、会員それぞれに心に響くものを感じました。

3 歳児から高校生まで、夢中になってマイ箸づくり！

午前 10 時、3 歳の幼児から高校生まで、アルバイトなどで外出中の子どもたち以外、在園しているすべての子どもたち 42 人が体育館に集まりました。藤本園長、小宮山会長の挨拶に続き、事務局の横瀬さんから箸づくりの順番について簡単に説明をし、そして青谷幸治副園長から注意点などをお話しいただいた後、あらかじめ年齢に応じて決められていた 9 班に分かれて、箸づくりが開始されました。

大きく分けて、工程は以下の通り。

- ① 割箸を割り、各自の箸の長さに合わせて、のこぎりで切る
- ② 紙やすりで角を滑らかにする
- ③ 模様や色を塗る
- ④ ラッカーで仕上げる
- ⑤ 乾燥させる

それぞれ事前に各自の箸の長さを計ってあったため、ほとんどの子どもたちはすぐに①の作業に

取りかかりましたが、計り方をまちがえていた子どもには担当の職員や会員がサポートして計り直したり、のこぎりがうまく使えない場合も手を添えたりして一緒に箸づくりを楽しみました。幼児の箸には、あまりの短さに、「ほんとにこれでいいの?」、そして思わず、「可愛い!」と感嘆することも……。 (写真は子どもと一緒に箸づくりをする小宮山会長です。)



紙やすりでの形づくりでは、細くなりすぎるのではと思うほどひたすら磨き続ける子どもがいるかと思えば、ひと通り磨いたらすぐに絵付けに取り掛かる子供など、子どもたちの性格が垣間見られました。中でも目を惹いたのが、箸ピー大会 2 年連続優勝の高校生の箸づくりでした。工業高校に通っているようで、自分のミニカンナで丁寧に削っています。もちろん、割り箸から作った箸とは思えないくらい良い形に仕上がっていきます。箸ピー大会に賭ける熱い思いが感じられました。

どの子の箸も個性的で素晴らしい出来栄!

絵付けは文字通り、個性が弾け飛んでいました。女の子はピンク系、男の子はブルー系が多くみられましたがどの子も精いっぱい、世界で一つだけのマイ箸をつくりあげていきます。事前に各自デザイン画を用意していたものの、なかなか思うように画けないと悩むのは、やはり年長の子どもたちに多いようです。「これ、〇〇に見えますか?」と職員や会員に問いかける子どもたち。同じ班の友達と見せ合っ、おしゃべりしながら絵付けをする子どもたち。それぞれみんな楽しそう! 最後はみんなすばらしい出来栄でしたよ!

制限時間の 12 時までには全員、最終段階のラッカー仕上げまで進み、玄関前には乾燥のため、段ボールで作った箸立てには、大小さまざま、色とりどりの箸が、立ち並びました。

この箸を使った箸ピー大会は 2014 年 2 月 8 日 (土) に行われます。

コラム/愛育園見学記

箸づくり教室終了後、同園の子どもたち、職員と一緒に食堂で昼食をいただきました。この日のメニューはパン、クリームシチュー、サラダ、牛乳など。お代わり自由とのことで、年かきの男の子の多くはお代わりしていました。また幼い子が正座でパンをほおぼる姿はほほえましく、また感心もさせられました。

昼食後、道向かいにある愛育園子どもたちの住まいを訪問させていただきました。木造のせいか、2 階建ての建物全体にぬくもりが感じられました。

時計台のような中央棟玄関前の板張りのホールには本尊様がまつられ、毎朝夕、全員がここに

集まりお参りをするとのこと。また夕食後の学習もここで行うそうです。床暖房で足元もほっこり暖か。これならお参りや勉強にも集中できるかな、と思いました。

玄関ホールを挟んで左が男子棟、右が女子棟。各 2 階建てです。その他、幼児のための部屋や集団生活に慣れない子どものための部屋もあります。

玄関から廊下、階段、娯楽室、洗面所浴室など共同で使用するところはそれぞれ整理整頓が行き届き、子どもたちの居室については、「先生! 絶対だめ!」と言う子どもたちの部屋は除いて、「いいですよ」と言ってくれた部屋のみ見せてもらいましたが、当然ながら同年代の子どもの部屋そのもの。「おい! いつもよりきれいじゃないか!」「そうですかア。いつもと同じですよ (笑)」というような職員と子どもたちとの会話からも日頃の暮らしぶりが垣間見られました。私たちが訪問した時、子どもたちの多くは娯楽室で思い思いに休日を過ごしていました。

もっとも驚かされたのは、すでに明日の登校のため、ランドセルのそばに洋服がキチンとたたまわれていたこと。お風呂場の脱衣所には各自のパジャマがこれまたキチンとたたまわれていて、これは朝起床後、いつも行っていることだそうです。集団生活の規範がしっかり守られていることの表れでしょう。

中学生になると洗濯など、身の回りのことはすべて自分で行うことになっているとのことですが「やはり、男子より女子の方がこまめに洗濯するようです」とのこと。洗濯干し場には洗濯物でいっぱいでした。「取り込むのを忘れて、朝になると、洗濯干し場から靴下などを取り出す子どもで混雑するんですよ」という話に、思わず苦笑してしまいました。

子どもたちの書画とともに壁面に 100 点の答案用紙が張り出されていたのも心に残ったひとつでした。このように、子どもたちの良さを引き出し、自立への支援を目指す同園の方針が随所に見られました。

最後に藤本園長、青谷副園長から子どもたちとの毎日の取り組みを伺い、人を育てることの難しさを改めて痛感しました。そして厳しい状況の中で懸命に生きようとする子どもたちに自信と希望を持たせようと、まさに真剣勝負で子どもたちと向き合うお二人の熱い思いに接し、感動するとともに、自分自身を顧みて、いろいろ考えさせられた一日でした。

<齋藤 眞澄 記>

行事

新年法要

あおぞらホーム 石黒玄章

新年第一回の職員会に当たり、愛育園では円福寺に職員一同で拝登します。職員を始め児童や関係者が一年間の無病息災を園長先生が導師をお勤めになり、円福大黒天のご加護を毎年受けてまいりました。

現在、愛育園には園長先生を始め 4 人の僧侶が職員として在籍しています。そこで本年は更なる

飛躍を願い、僧侶の職員も参加し御祈祷の法要を営みました。

法要が始まる鐘の音が鳴ると、職員は背筋が伸び、厳かな雰囲気法要が始まりました。普段、園と一緒に働く僧侶の職員も、法衣を纏えばいつもの様子とは違い緊張した面持ちで導師をお勤めの園長先生を迎えます。

園長先生が、御本尊に向かって新年に当たって誓願の文言をお唱えになり、祈祷太鼓が本堂に鳴り響く中読経が始まります。お経本を右に左と転読しながら我々も功德を手向けるために読経の声にも熱がこもります。職員も打ち出の小槌を一人一人回し、自身の幸せや児童の幸せを願います。熱い思いの中、愛育園を始め、世界人類皆の平和と安全を願い法要は無事に終了となりました。近年、儀式に対して簡素化の波が押し寄せています。しかし、古来から続く儀式を大事に大切にこそ毎日の一歩が有意義に、確実に歩めるものと確信しております。そして、何があっても「仏さんが見守ってくれている」と言う強い心を持って、このご縁を大切に、今年の愛育園はスタートしました。

祝！！成人式！！

まごころホーム長 石崎 早織

12日、13日と全国で成人式が開かれてい
る中、今年は何と愛育園にも初めて在園児
童で成人式を迎える児童がいました。彼女
は定時制の4年生です。本来なら20歳を
過ぎてしまうと施設で生活するという事
例がありませんが、園長先生はじめ、た
くさんの方々の協力があり、この日を迎
えることができました。彼女にも園長先
生からお話をいただき、ここで生活でき
ることに感謝しこの日を迎えたよう
です。着物は彼女の親戚の方に借り、念
願の振袖を着ることができました。13
日の夜は急きょ愛育園で成人を祝う会を
開いてもらい、特別メニューまで用意し
ていただきました。そしてみんなでお
祝いのメッセージを書いた色紙もプレ
ゼントし、彼女には成人の豊かさを
みんなの前で発表してもらいました。成
人を迎えるということはこれから全て
自分で責任をとること。少しずつ彼女
にもこの意味を理解してもらいながら
成長してほしいと願っています。



祝！！成人おめでとう！！

しめ縄集め

保育士 富沢正樹

1月13日、西横田地区のどんど焼きがありました。

夕方からのどんど焼きの為に、朝から小学生とご近所のしめ縄を集めて回ります。元気いっぱい

の子ども達は家の玄関先に出ているダルマさんやしめ飾りを我先にと駆け足しっ放しで集めていきます。あっという間に軽トラックがいっぱいになりました。

各家をまわっていくと、小学生は大小様々、色も様々なダルマさんがあることに気付いていきます。それが面白くなって、わくわくしながらしめ縄集めができたように思います。

途中、高学年の男の子が次々と家をまわってしまい、ある低学年の女の子が「わたし全然ダルマさん集められない。」とスネてしまったのですが、その姿を見た男の子が「はいこれ。ここまで持ってきたから、ここからトラックまで運んで！」と黄色のダルマさんをその女の子に渡すという優しい光景もあつたりしました。自分一人が楽しいよりも、みんなと楽しい方がもっと楽しい。その為に気遣いをし合える。しめ縄集めに限らず、そんな光景がここ最近増えてきた様に思え嬉しく思います。



集めたしめ飾りをグラウンドに持っていき、今度はどんど焼きができるように組んでいきます。それぞれお気に入りのダルマさんにヒモを通して「あそこに飾ってー」と地区の方をお願いしたりして、あっという間にできました。

一年の中で、こういった地区の伝統行事に触れられる機会が何度かありますが、このしめ縄集めもきっと子ども達の心を豊かにしてくれていると思います。

さあ、夕方のどんど焼きは上手にお餅が焼けるかな？

西横田地区 どんど焼き

保育士 酒井悠紀

1月13日どんど焼きがありました。朝8時半、しめ縄集めからスタートです。小学生は各家庭を回り、しめ縄を回収します。軽トラックがいっぱいになるまで集め、いっぱいになったところから、会場へもって行き、しめ縄を下ろします。どんど焼きを組むのは大人の仕事です。子ども達はわくわくしながら夕方

まで待ちます！！

3時ごろには、どんど焼き用のお餅の準備をしました。参加する小中学生、幼児へのお土産の分を含め、40個をアルミホイルで覆います。そして、一人一人に針金の付いた竹の棒を渡し、自分達でお餅をくくりつけます。なかなか、つけられずにイライラする子も居て、笑ってはいけないのかも知れませんが、笑みがこぼれ、睨まれたりも、、、。

さていよいよ火入れの時刻となりました。地区の方も大勢来ています。子ども達は大喜び、あっという間に大きな火に包まれました。竹のはじける音にビクッとしたり、だるまを支えていた紐が切れてだるまが転がったり、子ども達の笑みはなくなることはありません。しばらくして、お餅を

入れても大丈夫な火の大きさになり、自分でセットしたお餅を投入。熱い顔をこすりながらじっと待ちます。お餅が焼けた子から、お餅を食べました。寒空の下、少し焦げているお餅を頬張り、どんど焼きは無事終了しました。お土産用のお餅を幼児に分け、幼児もそれはそれはおいしそうに食べていました。

茶臼山動物園に行ってきました！

あおぞらホーム 山口 亮

年末年始で多くの児童は保護者と一緒に過ごしますが、園に残る児童も少なからずおります。そんな児童が年末年始を楽しく過ごせるようにと計画して幼児さん、小学生・中高生と分かれて年始行事に行ってきました。そんな私は幼児さんと一緒に茶臼山動物園に行ってきました。まずは最近できたばかりというモノレールに乗り茶臼山動物園に入りました。茶臼山動物園では年始イベントということで、動物園にドラゴンボールが落ちておりそれを持っていくとクジが引けるものでした。どれも動物の近くにあり、動物と触れ合いながら集めることができました。茶臼山動物園では動物に直接触れるコーナーがあり、幼児さん達は普段触ることのできないアルパカやモルモットに嬉しくなり楽しく触れ合ってくることができました。この日は、動物の紹介イベントがありゾウやライオンなどその鳴き声に驚きながら真剣に係員の説明を聞き、動物についてもたくさん知ることができた 1 日でした。帰るころには、みんな疲れきってしまい車内は静かに寝息の音が聞こえてくるような 1 日でした。

スケート行事に行ってきました。

保育士 内山和也

1 月 1 2 日、M ウェーブへスケート行事に行ってきました。当日は朝早くから調理の先生方がお弁当の準備を進めて下さっています。子ども達も、スケートを滑るのと同じくらいお昼のお弁当を楽しみにしています。さて、今回のお弁当はどんな素敵なお弁当になったのでしょうか…。それはお昼の時間までお楽しみ。

児童、職員合わせて 14 名で出発です。この日も無料開放日という事で M ウェーブはたくさんの人であふれています。そんな中でも、ルールを守って、怪我なくスケートを楽しむ事が目標です。

やはり子どもたちは少し滑り始めると、のみこみが早いですね。午前中滑りはじめは、職員に手を引いてもらっておっかなびっくりすべっていた子どもも、帰る頃には一人で転ばずにリンク 1 周を滑り切る事ができるようになっていました。

そして、約束を全員が守って、怪我なく滑れた事が何よりでした。

お楽しみのお昼の時間です。今年のお弁当は、なんと目玉の親父と、それぞれの顔をしたおにぎりのキャラ弁です。一同から「わぁ〜。すごお〜い。」と歓喜の声があがります。ひよこの卵やドングリの形をしたウィンナーなど、そしてお味のほうもカレー味の〜あげと、目でも舌でも楽しむ事ができる、とっても素敵なお弁当でした。朝早くからありがとうございました。

さて、スキーを思い切り楽しんだ後は、もう一つのお楽しみ、おやつのお楽しみ、おやつの買い物です。それぞれの子ども達がお金を持ち、限られた金額ではありますが好きなものを選んで買います。普段なかなか自分でお金をもって、その金額の中で自分の好きなものを選んで買うという経験が少ない子ども達。ルールは、この後公園に寄って、みんなでおやつを食べるけど、その公園で食べることが出来る量を買う事。でした。高校生の男の子は、金平糖を一袋買ってみたい、1・5 リットルのジュースを買おうとしたり…。当たり前前は当たり前。常識は常識として、しっかりと伝えていかなければいけないなあと改めて感じました。スケートの技術だけでなく、他にもたくさんの事を経験できるスケート教室。しっかりとその意味を子ども達に伝えながら、子ども達の力になってくれるような行事にこれからもしていきたいと思います。



スキー行事

保育士 酒井悠紀

1 月 19 日、小雪が降るこの日、いづなりリゾートスキー場へ、児童 17 人と職員 6 名が心躍らせ向います。山道を進むと、篠ノ井とは比べ物にならないほどの雪に子ども達も大興奮。そしてスキー場に着くと、、、軽く吹雪いている?! そんな状況になっていました。きっと私の日頃の行いが悪かったのでしょう。しかし、子ども達は雪が降っていても、風が強くてもお構いなし。はやくすべりに行こうと言わんばかりです。

ウェア、板をレンタルし、グループごとに滑走し始めます。私と一緒にすべるのは、高校生の男の子たちです。これも時代の流れでしょうか、グループのほとんどがスノーボードです。他のグループも高校生はスノーボードが圧倒的に人気です。スキーヤーの私としては寂しさも感じました。

高校生の男の子達は、とても上手です。綺麗にシュプールを描き、スピードを出しても恐がる様子は見えません。一方小学生達は、リフト乗り場までの少しの上り坂に大苦戦、一歩踏み出せば転倒、一歩踏み出せば後ろに下がり、職員も必死になり基本から指導をスタートしました。

お昼ごはんも各グループでいただきました。食事も済ませ午後の滑走に入ります。するとどうでしょうか、リフト乗り場までの上り坂に苦戦していた男の子が、スイスイ滑っているではありませんか。子どもの習得力に驚くと同時に、職員の指導に感謝です。誰一人として諦めたり、拗ねたりする子がいなかった今回のスキー行事。お昼過ぎからは天候も回復、青空も見え始めました。パウダースノーを楽しみながら、時間の限り楽しむことが出来ました。本当に楽しいスキー行事になりました。

* 調理室だより *

栄養士兼調理員 中澤希衣

1 月 1 1 日は何の日か知っていますか？お正月に作った鏡もちを割る、鏡開きの日です。毎年欠かさず行われる鏡開き、今年もやってきました。でも鏡開きだからと言って何か特別なことをするわけではなく、いつもはホームで食べるおやつ代わりに、食堂でおしるこを食べます。おもちはお寺からいただいた鏡もち。大きくて立派な鏡もちです。想像以上に固く、お餅を割るのにすごく大変でした。おやつは一人一杯までですが、今日は特別におかわりもあるよ〜！と声をかけると高校生から幼児さんまでみんなおかわりして食べていました。みんな夕飯は食べられるのかヒヤヒヤしながら見ていましたが、そんな心配はいらなかったようです。ご飯もみんなおかわりして食べていました。子どもたちの胃袋はすごいなと改めて感じた鏡開きでした。

まごころホームだより

保育士 武井萌

皆それぞれ充実したお正月を過ごし、あっという間に冬休みが終わりました。中高生たちは、学校が始まるとテストがあり、部活をやっている子は大会がありと、忙しそうにしています。小学生は、そよかぜホームから 1 人移ってきたため、全員で 4 人となり、また少し賑やかになりました。幼児さんは、2 月 3 日に行われる園内保育での豆まきにドキドキしているようで、「おりこうさんにしてないとオニさんきちゃうよ！」なんて声をよく耳にします。

先日、まごころホームでホーム食を行い、寒い時期にぴったりのお鍋をみんなで食べました。中高生が中心となって準備や片づけを行ってくれました。小学生や年長さんも自分に出来る事を探してお手伝いしてくれました。4 種類の味があり、自分が食べたい味を選んでお腹いっぱい食べる事が出来ました。これで、残りの 3 学期も頑張れそうです！

そよかぜホームだより

保育士 青木春奈

新年を向かえ、ようやくぽかぽかと暖かい日差しが届くようになりました。愛育園では年明け早々雪が積もり、雪合戦を楽しんだり、お正月行事で映画や動物園に行ったりと、園に残っていた児童もそれぞれ思い出に残る冬休みになったのではないかと思います。

そよかぜホームでは、冬休みも終わりに近づいた頃中庭に雪が積もったので、小学生でかまくらを作っていました。雪を積んで、固めて、自己流でかまくらを作っていく子ども達。もちろん本格的なものではありませんでしたが、身を縮めれば大人ひとり何とか入るくらいの規模にはなりました。外はとてもひんやりとしていましたが、「かまくらの中のほうが暖かいよ！」と子ども達は喜んでいました。

現在、子ども達は 2 月 8 日の箸ピー大会に向け猛特訓中です。「優勝したい！」「100 個以上取れ

るようになりたい！」と、子ども達なりに目標を持って取り組んでいます。中には「一位は無理だから、二位になりたい」と自分と向き合った目標もありましたが……。子ども達の熱意を見て、職員も負けてられないなと感じます。熱い大会になるように盛り上げて行きたいです。

いよいよ三学期。新しい学年に向けての準備が始まります。期待も不安もあるでしょうが、それぞれの思いを持って成長していかれたらいいなと思います。